

2017年2月 キューバ医療事情

下記情報は当地報道を抄訳したものです。詳しくは原文をご参照下さい。

2月1日【Granma】

“WHOは国際連帯の取り組みによりキューバのヘンリー・リーブ国際救助隊を表彰する”
1月31日。WHOは自然災害や深刻な感染症の流行に対する国際的な取り組みを認めて、キューバのヘンリー・リーブ国際救助隊に公衆衛生賞を授与した。ジュネーブのキューバ大使館の発表した声明によると第140回WHO理事会で満場一致で決定された。2009年に設立されたLee Jong-Wook公衆衛生記念賞は、公衆衛生分野において著明な貢献をしている人々や機関、団体の活動を表彰する。この賞は、様々な自然災害を受けた国々における連帯の取り組みや危険なエボラ出血熱が流行したアフリカの国々において250人以上のキューバの保健専門家の活動の結果、ヘンリー・リーブ国際救助隊に授与された。

ヘンリー・リーブ国際救助隊は自然災害や危機的な感染症の流行に特化した医療専門家集団としてキューバ革命の歴史的指導者であるフィデロ・カストロにより2005年9月19日創設された。設立以来、7254人のキューバ医療従事者が19ヶ国（ハイチ、チリでは2回）で活動を行った。このような任務のために特別に訓練された保健専門家は350万人以上の人々を治療し、8万人の命を救ったと推定される。

この賞は、ジュネーブで5月22-31日に開催される第70回世界保健総会で授与される。

2月3日【Granma】

“手術の近代化”

2月3日首都ハバナにあるホテル・ナショナルにて泌尿器科、一般外科、婦人科の分野のロボット手術と腹腔鏡手術に関連する科学的知識の更新と共有に特化した学会が開催された。

2月3日【CUBANET】

“キューバ政府は、任務を放棄した医師達がキューバに戻り、キューバの保健システムに戻ることができる”と述べた。”

アメリカ合衆国のパロール・プログラムは今年の1月12日で廃止された。それに伴い、キューバ政府は国際的任務を放棄した医師達を再びキューバにも同用意があると述べた。キューバに戻るだけでなく、従来通り医療従事者として復帰が許可された。

2006年8月ジョージ・W・ブッシュ共和党政権でパロール・プログラム*は成立した。これはキューバ人医師が外国での任務を放棄するのを後押しするためのもので、それは対キューバや主に第三世界であるその他の国々にも影響を及ぼした。公式な記録はないが、近年、数千人のキューバ人医師が彼らの任務を放棄したと言われている。これらの任務放棄により、キューバの保健システムだけでなく、年間80十億ドルと言われるキューバ人医師

の外国への派遣によるキューバへの収入に影響を与えた。パロールプログラムの廃止だけでなく、“ドライフット・ウェットフット”政策**の停止もキューバと北の隣国との関係の正常化の前進である。オバマ大統領は彼の任期が終わる1週間前にこの発表を行った。トランプ新大統領も、この非合法移民の中止を好んでおり、同じように同意すると発表している。

*パロール・プログラム：第三国で医療活動を行っているキューバ人医師達が、米国への亡命を希望した場合、米国に受け入れるプログラム。

**キューバ人がアメリカ合衆国のいかなる土地に着けば、1年後にはグリーンカードが与えられる政策。しかし海上で拿捕された場合はキューバに送還される。

2月9日【Granma】

“子供の健康の保証”

第56回経口ポリオワクチンキャンペーンで今年の2月から4月にかけて地域に密着しているポリクリニコの指導の下、合計で47万1888人の子供達にポリオワクチンを接種する。第一期は2月20日～26日、第二期は4月17日～23日に行われる。第一期と第二期で3歳未満の36万3778人に接種を行い、9歳の10万8110人が第二期に1回のブースター接種が行われる。1962年～2016年までに約8380万人にポリオワクチンの接種を行い、ポリオから69歳未満のキューバ人を守っている。

キューバはラテンアメリカで最初にポリオを根絶した国であり、現在も国民の99.5%の接種率をほこる。現在、14種類の感染症を根絶し、9種類の感染症は健康リスクをきたしておらず、29種類の感染症はコントロールしている。キューバにおける感染症の死亡率は1%未満で、感染症による死亡原因を最小限に抑えている。

2月13日【Granma】

“遺伝子センターはグアンタナモでの健康改善に貢献”

乳児-妊産婦のための国立遺伝子医療プログラムは1980年代に設立以降、継続的に発展している。11年前に設立されたグアンタナモ県立遺伝子センターでは2016年に約6500人の妊婦と月齢3ヶ月までの乳児5000人に対して専門的な注意を与えた。このセンターで働く20人の専門家によって、先天性疾患の早期発見が可能となった。ここ10年の業績により乳児死亡率は低く抑えられ、グアンタナモ県で生まれた乳児の平均寿命を延ばすことに大きく貢献している。このセンターの仕事は、遺伝的リスク、脊髄欠損、鎌状赤血球症や細胞遺伝学的研究や活動的 newborn モニタリングによる染色体異常といったことの出生前評価も含まれる。また妊娠前のリスク評価や子供を持つことを考えているリスクがある夫婦に対する相談も行っている。このセンターは受胎前や出生前ケアを最初に行う家庭医やポリクリニコとの連携を緊密にしている。

2月14日【CUBANET】

“キューバのワクチンを米国で販売する会社が投資家を募集”

NYのRoswell Park研究所とハバナの癌と分子免疫センターとの間で作られた会社は4月に新たな米国の投資家を探すであろう。トーマス・シュワブ腫瘍学教授は火曜日の記者会見で我々が探している投資家のためにも4月1日までに合弁企業がキューバで法人化できるよう望んでいると述べた。この合弁会社は基礎研究とR&D(研究開発)だけでなく、我々研究者同士の共同作業も可能となっている。投資家がこの合弁会社に投資をすることにより、キューバからバイオテクノロジーを購入し、米国のFDAに承認申請を行う。この合弁会社は、オバマ政権の施策のおかげで設立されたもので、バイオテクノロジー分野では初の試み。この薬を製造する施設は、マリエル特別開発区に位置することになる。

肺癌に対するCIMAvaxワクチンの米国での臨床試験は、FDAの認可を受けて今年1月に開始されている。

2月16日【Granma】

“カリスト・ガルシア病院で2万回以上の手術が行われた”

カリスト・ガルシア病院の救急部は、多発外傷患者ケアで有名で、24時間の専門的治療、予防的治癒およびリハビリ治療を提供している。大手術、小手術、低侵襲手術合わせて2万件以上の手術が昨年カリスト・ガルシア病院で行われた。15万7273人の外来患者の診療し、14万1000人の患者に対して自然・伝統医学プログラムにより治療を行った。この病院には37の専門科があり、25の学位コースがある。救急部のスタッフは昨年21万5000人の患者を治療した。ハバナ・ビエハ、ハバナ・デル・エステ、中央ハバナ、青年の島、マヤベケ県等から多発外傷患者、重症患者、瀕死の患者を治療している。

カリスト・ガルシア病院救急部は1月23日に121周年を迎えた。重症の熱傷患者の形成外科や多発外傷の症例の先進的な管理、肥満や脊髄や外傷性脳神経障害に対して質の高い治療を与えることにより、この病院はあらゆる専門家にとって国家基準センターにもなっている。

2月23日【CUBANET】

“キューバはラテンアメリカにおいて、うつ病が2番目に多い国”

本日WHOから報告された最新のデータによるとキューバはブラジルに次いでラテンアメリカで2番目にうつ病で苦しんでいる方が多い国である。ブラジルの罹患率は5.8%、続いてキューバが5.5%、パラグアイ5.2%、チリとウルグアイ5%、ペルー4.8%、アルゼンチン、コロンビア、コスタリカ、ドミニカ共和国4.7%。世界で3億2千2百万人の方がうつ病に苦しんでおり、10年前に比べると18%も増加している。他方、2億6千4百万人が不安障害に苦しみ、10年前に比べると15%増加している。世界で4.4%の方がうつ病で苦しんでいる。うつ病は女性の罹患率が5.1%と男性の3.6%に比べて多い。加えて人口が増

え、平均寿命が伸びており、特に低～中所得国において精神障害に苦しむ方が増えている傾向にある。事実、有病率は若年者より成人の方が高く、55歳～74歳の女性では7.5%、男性では5.5%がこの病気に苦しんでいる。うつ病は年間80万人の自殺者の一番の原因となっている。

不安障害も女性4.6%、男性2.6%と女性に起こりやすい。

特にアメリカ地域では男性が3.6%であるが、7.7%の女性が不安障害に苦しんでいる。

ラテンアメリカでブラジルが不安障害に苦しんでいる方の割合が最も多く9.3%、次いでパラグアイ7.6%、チリ6.5%、ウルグアイ6.4%、アルゼンチン6.3%、キューバ6.1%、コロンビア5.8%。